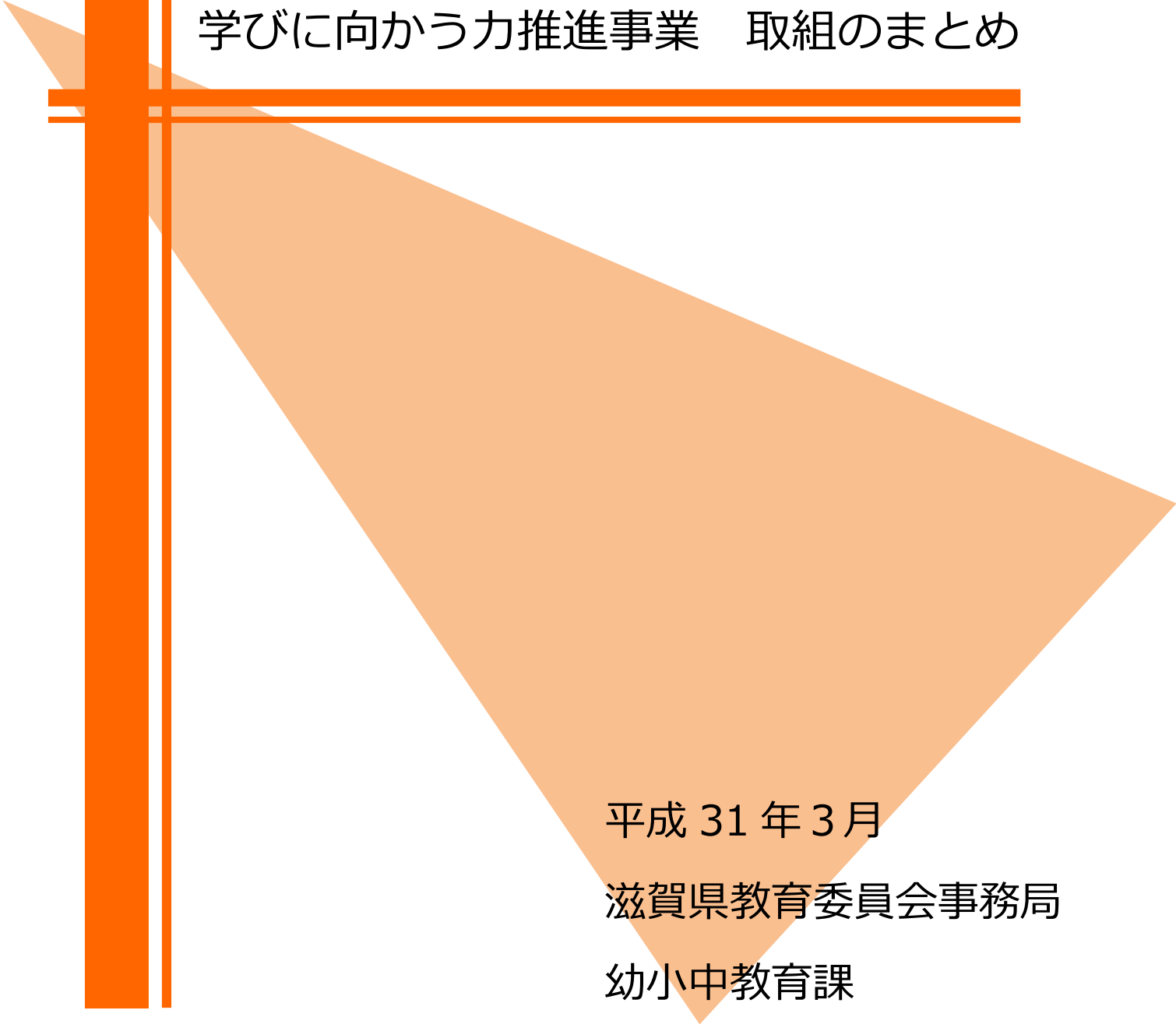




平成 30 年度

学びに向かう力推進事業 取組のまとめ



平成 31 年 3 月

滋賀県教育委員会事務局

幼小中教育課



目次

はじめに 2

研究指定校園の取組

第1ブロック 高島市立マキノ西こども園・マキノ南小学校 3
『じっくり遊ぶ子からとことん学ぶ子へ』
～ 12年間の学びをつなぐ保育、授業づくり ～

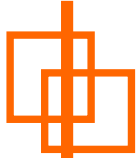
第2ブロック 栗東市立大宝西保育園・大宝西幼稚園・大宝西小学校 5
『心動かし いきいきと学ぶ大西っ子を目指して』
～ 自ら学び考える力を育てる保育・授業の在り方を探る ～

第3ブロック 竜王町立竜王幼稚園・竜王小学校 7
『学びに向かう力を育む保育や授業の在り方』
～ 一人ひとりの自信を育み主体的・対話的に学ぶ基礎の育成 ～

第4ブロック 多賀町立多賀幼稚園・多賀小学校 9
『心豊かにたくましく つながり学ぶ多賀の子』
～ 自ら学び高め合う子どもの育成 ～

第5ブロック 長浜市立とらひめ認定こども園・虎姫小学校 11
『学びの連続性をふまえた保育・教育の創造』
～ 接続期における学びの力・関わり力・体の力の育成 ～

資料 学びの基礎指導の手引き（改訂版）（抜粋） 13



はじめに

県教育委員会では、平成 27 年度より「学びに向かう力育み事業」および「学びの基礎体験型学習プロジェクト」を、平成 29 年度からはこの 2 つの事業を一体化して、「学びに向かう力推進事業」を実施し、幼小の滑らかな接続に取り組んでまいりました。本年度からは、研究指定期間を 2 年間として、幼児期の教育と小学校教育との接続に配慮した教育課程の編成や、子どもたちの「学びに向かう力」の育成につながる指導内容や方法の工夫改善についての実践的研究を推進し、ここに研究 1 年目の取組をまとめました。

指定を受けた園や小学校においては、それぞれの保育や授業を見合って、互いの教育を知ることから始め、主体的・対話的で深い学びの視点を生かした保育・授業改善を進めてきました。また、何度も協議を重ねながら、幼児期の「学びの芽生え」を児童期の「学びの基礎」につなぐ接続に配慮した教育課程を編成し、子どもたちの学ぶ力を育む実践的な研究を進めてきました。10 月～11 月に指定校園で開催されたブロック別研修会では、公開保育・授業、研究協議会に県内の学校園から多数の先生方の参加があり、幼小の連携・接続について改めて考える機会になったと感じております。

今回改訂された幼稚園教育要領等や学習指導要領には、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10 の姿）」が示されました。これをもとに、幼稚園等と小学校が 5 歳児修了時の姿を共通認識することで、より一層の接続が期待されています。指定校園でも、この「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10 の姿）」を活用し、幼児期の学びと育ちは小学校以降の教育の大切な根っこであることを共有しながら研究が進められています。本冊子を参考にしながら、県内それぞれの校園で子どもの学びや育ちについて語り合い、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続に一層努めていただければ幸いです。

最後になりましたが、本指定事業に熱心にお取り組みいただきました指定校園の教職員の皆様ならびに、指定校園の研究を支えていただきました市町の担当課の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成 31 年 3 月 滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課
課長 辻本 長一

第1ブロック：高島市立マキノ西こども園・マキノ南小学校
研究主題：じっくり遊ぶ子からとことん学ぶ子へ
 ～12年間の学びをつなぐ保育、授業づくり～

1 主題設定の理由

マキノ南小学校は高島市マキノ町の南部、マキノ西こども園は同町の中心部にそれぞれ位置し、田園風景が広がる自然豊かな環境で四季の変化を感じながら子どもたちはのびのびと育っている。保護者や地域の方は協力的で、行事への参加も積極的である。



マキノ西こども園の子どもたちは明るく素直で人なつこく、物事に真面目に取り組むことができる。その反面、自信のないことには取り組もうとしなかったり、とびつきはよいが根気よく取り組めなかったりすることや、友だちに関心が薄いことに課題がある。小学校では、少人数による手厚い指導により、全体的に素直でまとまりのある集団になっているが、学ぶことに対して受け身的な子どもが多く、一人ひとりの子どもの主体性を育む視点を大切にする必要がある。また、少人数で指導が行き届く反面、固定された人間関係に閉塞感を感じている児童がおり、幅広い人間関係を築いたり、大きな集団で自己表現をしたりすることに課題がある。

こども園から小学校への接続は、子どもたちにとって上がれない段差であってはならないし、下がりたくない段差であってほならない。そのため、入学時の教育課程には「滑らかな接続」を意識した編成の工夫が求められている。しかし、園児と児童の実態について、小学校とこども園の職員同士が情報を共有することがほとんどないまま、日々の保育、教育が行われている実態があった。また、小中一貫教育を推進している高島市では、小中9年間の系統性を意識した教育課程の編成や、中1ギャップの解消に向けた様々な実践をしているが、子どもの育ちはそれ以前から始まっており、12年間をひとまとめとして保育、教育を考える必要がある。

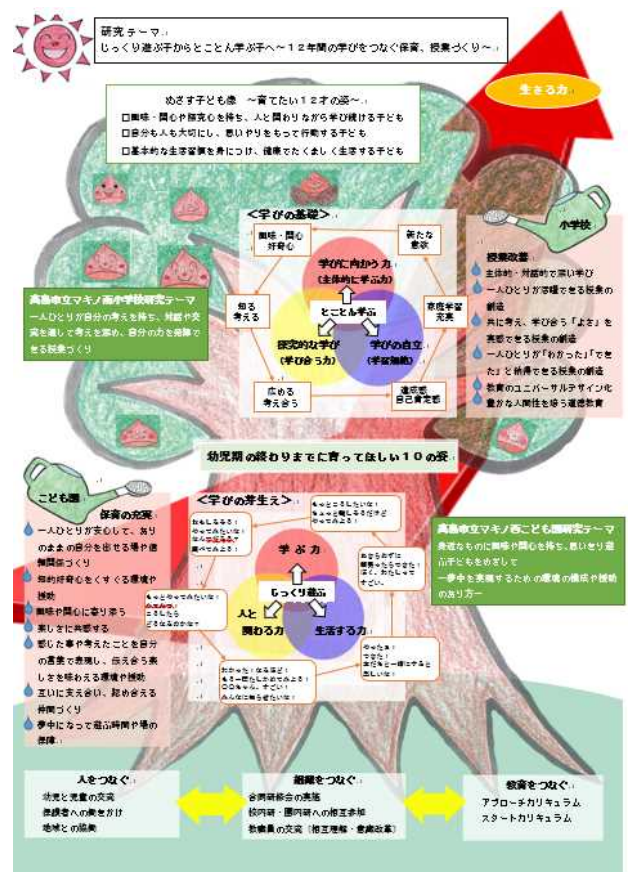
これらのことから、こども園で“じっくり遊ぶ”子から小学校で“とことん学ぶ”子へ、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの作成とそれに基づいた実践を通じて、よりよい接続の在り方について考える研究を進めることにした。

2 研究の目標

保育と教育の接続に関する課題と12歳までに育てたい子ども像を明確にしながら、接続期のカリキュラムを作成・実践し、「興味、関心や探究心を持ち、人と関わりながら学び続ける子ども」「自分も人も大切にし、思いやりをもって行動する子ども」「基本的な生活習慣を身に付け、健康でたくましく生活する子ども」を育成する。

3 研究の仮説

- ①こども園と小学校の連携の土台として、「人のつながり」「組織のつながり」「教育のつながり」を確立することが、子どもや家庭の安心や信頼になり、滑らかな接続が可能になるのではないかと。
- ②「学びの芽生え」段階の保育の充実や、「学びの基礎」段階の授業改善を、全ての保育士と教員が強く意識して取り組むことで、子どもたちは学ぶ楽しさを味わうことができ、主体的に学ぶという意欲が高まるのではないかと。



基本構想図

4 実践事例 <仮説に対する実践>

■マキノ西こども園の園内研究

研究テーマ「身近なものに興味や関心をもち、思いきり遊ぶ子どもをめざして ～夢中を実現するための環境の構成や援助の在り方～」に基づく保育の充実

■マキノ南小学校の校内研究

研究テーマ「一人ひとりが自分の考えをもち、対話や交流を通して考えを深め、自分の力を発揮できる授業づくり」に基づく授業改善

■職員の交流（組織をつなぐ）

保育研究会、授業研究会への相互参加による、園での「学び」の意味や小学校の「学びの在り方」に関する協議や情報交流

■アプローチ・スタートカリキュラムの作成（教育をつなぐ）

■園児と児童の交流活動の見直し（人をつなぐ）

- ・園児が小学校の運動会において参加する競技の内容を園と相談しながら改善
- ・小1児童がこども園で植えたじゃがいもを、5歳児と一緒に収穫し味わうなど、児童と園児のつながりや活動の継続を考慮
- ・1日体験入学を見直し、遊びの交流～給食～学校探検まで活動内容を拡大、充実



5 研究1年目の成果と課題

- ・保育・授業の相互参観や職員間の協議・情報交流、カリキュラムの編成等を通して、子どもの学びの連続性に対する認識や乳幼児教育・小学校教育それぞれの段階で大切にしていることについての理解が深まった。また、改めて小学校入学時に子どもが感じる段差とその大きさに気付くことができた。これらのことを踏まえて、子どもの実態に即した接続期のカリキュラムを作成することができた。
- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を意識し、0歳児から5歳児までの学びの連続性の大切さを考えたり、日々の保育を振り返る中で環境の構成の在り方や保育者の援助について話し合ったりしたことは、保育の充実につながった。

6 研究2年目に向けて

○研究テーマ「～12年間の学びをつなぐ～」を踏まえた研究体制とするために

- ・今年度の研究に取り組む中で、園と小学校の職員間で子どもの姿の見取り方に相違があることが分かった。12歳までに育てたい子ども像に迫るためには、共通した視点に沿って、より丁寧に日常の園児・児童を観察し、育ちや学びについて語り合う「子どもを語る場」が必要である。
- ・「組織をつなぐ」が、一部の教師や保育士の連携とならないように、学校全体・園全体の共通理解や協力体制が必要である。そのために、年度当初から合同研修、合同会議、保育・授業参観を計画し、全職員が関わりながら、連携の在り方や接続期のカリキュラムについて考えていく。
- ・校園間の連携を根付いたものにするために、持続可能な体制を整える必要がある。マキノ中学校区の小中一貫教育の取組も含めて、連携・調整を進めていく。

○アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムをより実効的なものとするために

- ・5歳児から1年生への学びの接続を意識して作成したカリキュラムを実効的なものとするために、今年度3学期の保育参観および次年度1学期（1年生）の授業参観を計画的・重点的に行い、子どもの姿や指導の在り方を語り合う検証の場を設け、改善していく。
- ・12歳までに育てたい子ども像と照らし合わせて、接続期の単元の構成や環境構成、協力体制等について成果と改善点を明らかにすることで、接続期のカリキュラムの質の向上を図っていく。

第2ブロック：栗東市立大宝西保育園・大宝西幼稚園・大宝西小学校
研究主題：心動かし いきいきと学ぶ大西っ子を目指して
 ～自ら学び考える力を育てる保育・授業の在り方を探る～

1 主題設定の理由

子どもたちが心動かし、いきいきと学ぶには、幼児期の「遊びの中の学び」のどの部分に自ら学び考える力を育てる要素があるのかを踏まえた上で、小学校における学びの基礎につなげる必要がある。幼児期の「遊び」では、環境設定を工夫し、保育者や友だちとの関わりの中で、目的や目標をもって自分のやりたいことを繰り返し試したり、自分の思いを表現したり追求したりする姿を目指している。本研究では、このような姿を「自ら学び考える力を育てる要素」と捉え、保育・授業の在り方を探るべく研究主題を設定した。園は子どもたちの「遊びの中の学びの姿」について小学校に向けて発信し、小学校は園での「遊びの中の学び」を生かした授業改善で、保幼小の「接続」を進めていきたい。

2 研究1年目の目標

「自ら学び考える力を育てる要素」に着目して、幼児教育と小学校教育をつなぐ保育・授業の共通の視点を明らかにし、本小学校区の接続期カリキュラムを編成する。

3 接続期カリキュラムの編成に向けた取組

(1) 互いの保育・授業の参観

「接続」にあたって、まずは原点に戻って、互いの保育・授業を見合い、互いの教育を理解することから始めた。

大宝西保育園5歳児『色水あそびをしよう』では、友だちと助け合いながらも自分で挑戦したり最後までやり遂げたりする経験を大切にしたいと考え、自ら選択できるよう様々な材料や用具を用意する等の環境設定の工夫を行った。

大宝西幼稚園5歳児『かっぱ迷路で遊ぼう』では、“かっぱ”というテーマのもと、友だちと対話したり協力したりする経験を大切にしたいと考え、イメージを膨らませるための投げかけや環境設定を行った。

小学校1年生担任は、公開保育を参観して、「子どもたちの発想はすごい！」と驚いていた。そして、子どもたちの「遊びの中の学びの姿」から「目的意識をもつこと」「繰り返し試すこと」「表現すること」に注目し、それらを自ら学び考える力を育てる共通の視点として、算数科「のこりはいくつ ちがいはいくつ」の授業を組み立てた。授業では、楽しみながら学ぶ子どもの様子が見られ、ブロックを用いて試行錯誤しながら計算の仕方を考えたり、友だちに説明したりする中で、学びを深めていった。



大宝西保育園



大宝西幼稚園

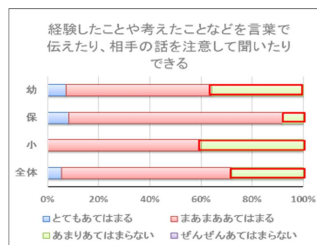


大宝西小学校

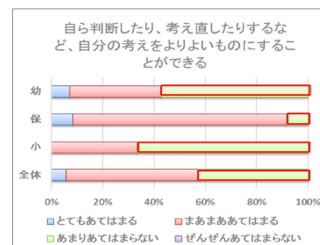
(2) 幼児・児童の実態調査

接続期カリキュラムを考えていく上で、「5歳児と小学校1年生の現状と課題」を把握するため、教職員に幼児・児童の実態調査を行った。これについては、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」をもとに、調査内容を①人との関わりに関すること、②学びに向かう力に関すること、③文字・数・思考に関すること、④規範意識に関すること、⑤生活習慣に関することの5種類12項目の設問を作成し、教職員が関わったここ数年の5歳児と小学校1年生について尋ねた。

調査結果から、「自ら判断したり、考え直したりするなど、自分の考えをよりよいものにすることができる」や「経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりできる」という項目で、「あまりあてはまらない」という回答が多く見られた（調査結果①②）。大宝西小学校区の5歳児と1年生の課題として、「自ら考える」や「言葉で伝える」という部分に弱さがあると考えられる。結果から見られたこのような課題も踏まえながら、カリキュラムを編成した。



調査結果①



調査結果②

4 接続期カリキュラムの実際

(1) アプローチ・スタートカリキュラムの構成

栗東市では、接続の要素を「人と関わる力」「生活する力」「学びに向かう力」の3要素に分けてめざす子どもの姿や教育活動を設定する。アプローチカリキュラムでは、遊びや活動の中で身に付けたことを小学校につないでいくことを意識し、スタートカリキュラムでは、安心・成長・自立を目指して、時間割や学習活動を工夫することを考慮している。また、先に述べた本小学校区の課題を踏まえながら、「自ら考える」や「言葉で伝える」を大切に編成を行った。

さらに、「自ら学び考える力を育てる要素」に着目した共通の視点（キーワード）を、「目的意識をもつ」「試行錯誤する」「表現する」とし、保育・授業改善に取り組んでいくこととした。

(2) 保護者との連携

接続期カリキュラム実施にあたっては、保幼小の連携・接続の取組を保護者と共有する必要があると考えた。そのためには、園でのどのような姿を小学校につなげていくのか、また、子どもたちが安心して段差を乗り越えられるようにするには、家庭でどのようなことに配慮していけばよいかを発信していくことにした。

5歳児の1月にはアプローチカリキュラムについて、2月の小学校入学説明会ではスタートカリキュラムについての説明を行い、理解と協力をお願いした。このように、園と小学校が家庭に対して共通の働きかけをすることによって、保護者に安心感が生まれる。それは、子どもの自信や安心となり、段差を乗り越える力につながると考える。

5 研究1年目の成果と課題

成果としては、互いの保育・授業を参観することにより、「目的意識をもつ」「試行錯誤する」「表現する」の3つを共通の視点（キーワード）として保育・授業改善を進めるという方向性が明確になった。また、保幼小連携会議では、単なる子どもに関する引継ぎにとどまらず、一步進めて、「接続の視点」で語り合ったことにより、互いの保育・教育について理解することにつながった。「接続の視点」とは、園で取り組んできたことや育ってきたことが、小学校の授業にどうつながるかという視点である。

今後の課題として、小学校教員は、子どもの遊びのプロセスの中にある学びや育ちをさらに知る必要があり、園は、行っている遊びにどのような学びの芽生えがあるのかを言語化して示す必要がある。そのためには、より多くの小学校教員が園の保育を参観する機会や、園が「遊びの中の学びの芽生え」について発信する機会を設定していく必要がある。そして、保幼小連携・接続の意義は、5歳児と小学校1年生のみにとどまらず、全ての年齢、学年に関わり、つながっていることを念頭に置いて全教職員が共通理解をして、学びをつなげていかなければならない。

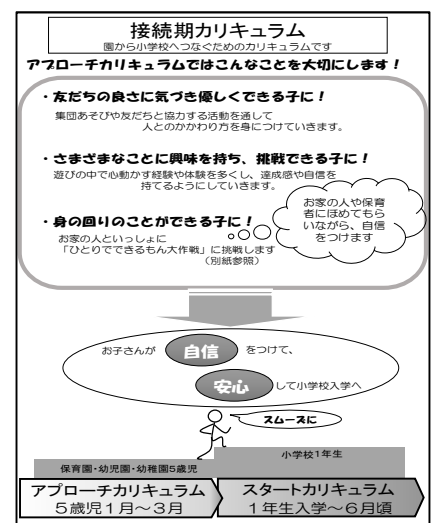
6 研究2年目に向けて

まず、ブロック別研修会において、岐阜聖徳学園大学教授 西川 正晃 先生よりご指導いただいた「連続性」「互惠性」「日常性」「必要性」を保幼小の全教職員が常に意識しながら、今年度見いだした保育・授業の共通の視点（キーワード）をもとにした保育研究、授業研究に取り組んでいきたい。

また、今年度作成したカリキュラムの実践と、子どもの姿を通じた検証を行い、学年会や保幼小連絡会議等で子どもの成長する姿や指導方法についての情報交換を行っていききたい。さらに、実践で得られた指導案や教材、子どもたちをどう見取ったか等の資料をデータベース化するとともに、次年度に向けてカリキュラムの改善を図っていききたい。

5歳児	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小1	4月	5月	6月	7月
	アプローチカリキュラム						スタートカリキュラム				
人と関わる力 生活する力 学びに向かう力	遊びや活動を通して学んでいく教育課程						「安心」「成長」「自立」をめざして時間割や学習活動を工夫				
	・遊びや活動を通して人との関わりを楽しみ、いろいろな思いに気づいたり共感したりする。		・友だちの良さに気づき、人に優しくしたり、相手の気持ちを考えたり関わったりする。		・学習や活動を通して、新しい集団で自分を表現しようとする。			・折り合いをつける経験を積み重ね、友だちの幅を広げる。			
	・健康・安全な生活に必要な習慣や態度を身につける。		・生活習慣が確立し、見通しを持って生活する。【ひとりでもできるもん大作戦1】 ・当番活動や役割を経験する。				・朝の用意や帰りの用意を一人でする。 ・保幼で経験した当番活動を生かして日直や仕事活動を行う。			・チャイムに合わせて行動し、学校生活のリズムに慣れる。 ・授業の用意や身支度を一人でする。【ひとりでもできるもん大作戦2】	
	・様々な物事の面白さや不思議さに興味を持ち、自分で工夫したり試したりする。		・心を動かす経験や体験を通して達成感や自信を持つ。				・物事に関心を持ち、主体的に関わり合うとする。 ・安心して自分のことを話したり、学習に取り組んだりすることができる。				
	保育・授業の視点(キーワード)・・・「目的意識を持つ」「試行錯誤する」「表現する」										

大宝西小学校区 接続期カリキュラム（一部抜粋）



アプローチカリキュラム説明資料

研究主題：学びに向かう力を育む保育や授業の在り方

～一人ひとりの自信を育み主体的・対話的に学ぶ基礎の育成～

1 主題設定の理由

竜王幼稚園と竜王小学校では、これまで5・1交流、5・5交流、幼小教師間交流（授業入り込み・保育参加）等を通じて、子どもの育ちや姿（学び）を話し合う機会をもってきた。しかし、子どもの見方や育ちの視点のもち方について、幼稚園と小学校で違いを感じることもあり、子どもの育ち（学び）について深めていけるような連携はなかなかできていない現状があった。

そこで、幼小共通の見方、育ちの視点として、幼稚園では、日々子どもたちの姿や、環境構成、教師の援助の在り方を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」と照らし合わせながら協議し、研究を進めていく。「やりたいな！できた！もっとやってみたい！」と夢中になれる体験を通して、子どもたちが自信をもって意欲的に取り組み、つまずきを感じた時にも「頑張るぞ！」「きっとできる！」と前向きに踏ん張れる力や学びに向かう力を育てていく。

また、小学校では児童が安心して小学校生活を送ったり、主体的に学びに向かう力を育んだりするために生活科を核としたスタートカリキュラムを実践する。その際、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を視点として子どもの育ち（学び）について考え、幼小の滑らかな接続を目指す。

2 研究の方法と内容

【方法】

幼稚園と小学校で合同研究会をもち、幼稚園の遊びを通して主体的・対話的で深い学びが小学校での確かな学びにつながるようにする。その際、接続期のカリキュラムを基盤にして「幼児期までに育ってほしい姿（10の姿）」を共有することにより、幼小接続を推進していく。（学びに向かう力を育成する指導内容や方法の改善について実践的研究を推進）

【内容】

- ・保幼小接続連絡協議会（5月）
- ・合同保育研究会（5月）
- ・5・1交流と事前事後協議会（6月、10月、11月、2月）
- ・アプローチ・スタートカリキュラム協議会（7月、8月、2月）
- ・合同研修会「幼小の学びをつなぐために」（8月）
- ・合同事例研究会（育ちを見取りつなげる会5歳児）（10月）
- ・学びに向かう力推進事業ブロック別研修会（11月）
- ・教師間幼小交流（幼稚園保育参加・協議会）（1月）



年度当初、幼小合同の研究主題について話し合い、互いの年間計画の中に合同の協議会や研究会を組み込んで、取り組みやすくしました。



3 実践事例

○ 6月 5・1交流「おかえりなさい、1年生。～幼稚園であそぼう～」と事後協議会



6月11日（月）に、5歳児と1年生の交流会を行い、終わってから子どもたちの様子について協議をしたところ、以下のような意見があった。

- ・子どもたちははじめ、互いに緊張している様子だった。
- ・時間がたつにつれて関わりが見られるようになった。
- ・全体の様子だけでなく、個々の子どもたちの関わりをもっと丁寧に見ていきたい。
- ・子どもたちがもっと関わりを広げたり、深めたりするには、事前打ち合わせをもっと密にしておく必要がある。

○ 10月 5・1交流と事前協議会

6月の交流会の事後協議から、10月の交流会では、事前協議会で打合せを行った。

秋の交流会はどんなことをしましょう？

1年生の学習と5歳児の遊びで交流できることってどんなことかな？

秋は自然物を使った遊びや学習があるね。

中休みの時間を利用して一緒に遊ぼう！

物を作って遊ぶことや学ぶことが深まる時期だね。

交流会までにも遊べる機会がもてるといい！

事前協議会で打合せを行う中で、互いにより具体的な子どもたちの姿を予測しながら、活動の計画を立て、準備する環境などを話し合っていた。

○ 育ちを見取りつなげる会（合同研究会）

子どもたちの生活や遊びの姿の写真を持ち寄り、つぶやきや育ち、教師の役割などを考え“幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿”につなげていく『子どもの育ちを見取りつなげる会』を開いた。

写真の子どもが、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」のどの姿に当たるかを協議しています。



4 研究の成果と課題

- ・ 合同の研修会等を通して、幼児期の育ち（学び）を一緒に考えることで、幼稚園の教員と小学校の教員が子どもの見方や育ちの視点のもち方について、共通理解を図ることができた。
- ・ 保育の写真を見ながら、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を視点として、その場面の子どもの様子や思いを考えたり、幼稚園の教員が具体的に子どもの姿を伝えたりすることで、小学校教員の幼児教育に対する理解が深まった。また、「10の姿」についての具体的な理解につながった。
- ・ 園児と児童の交流会では、事前打合せと事後の協議会を行うことで、子どもたちの関わりを丁寧に見ることができ、理解を深められた。
- ・ 様々な交流をしていきたいが、校舎のカリキュラムの違いにより時間を取ることが難しい。



5 研究2年目に向けて

- ・ 幼児期における接続期カリキュラムの実践が小学校教育とどのようにつながるかについて、具体的な事例を考え、実践していく。
- ・ 5・1交流の年間計画をたてたり、生活科のカリキュラムを見直したりして、竜王独自の接続カリキュラムを作成し、今年度の反省を次年度の研究に繋げていきたい。
- ・ 学びの見取り方や細やかな支援の仕方、環境構成等について、幼稚園と小学校の教員が互いの独自性やよさを学び合い、さらなる保育・授業改善に生かしていきたい。

第4ブロック：多賀町立多賀幼稚園・多賀小学校 研究主題：心豊かにたくましく つながり学ぶ多賀の子 ～自ら学び高め合う子どもの育成～

1 主題設定の理由

多賀町は、町内に1中学校、2小学校、1保育園、1こども園、1幼稚園の6校園で成り立っており、校種間の連携を大切にしながら「未来にはばたくことができる、心豊かでたくましい人づくり」を基本目標に教育の推進を図っている。子どもたちの特性としては、素直で穏やかであり、学習に対してまじめに取り組むことができる。しかしながら、自ら働きかける力に課題が見られ、主体的な学びを追究しているところである。

そこで、町内の校種間連携のモデル学区として多賀幼稚園と多賀小学校との幼小連携をもとに、幼児期の遊びや生活を通した学びと育ちを基本として、小学校で主体的に自己を発揮し、自ら学び高め合う力を育む教育課程の創造を図る。

2 研究の目標

幼稚園と小学校の教員が互いの保育・教育や子どもの育ち（学び）を学び合い、それぞれの目指す子どもの姿を共有しながら、アプローチ・スタートカリキュラムを作成していくことによって、幼児期の育ち（学び）を小学校での学習の基礎につなぐ。

3 幼児期の育ちと学びを小学校教育につなげる

アプローチ・スタートカリキュラムの作成にあたり、下記の研修を計画的に積み重ねた。

- 1 学期・・・多賀小多賀幼合同研修会（小学校低学年の公開授業、研究協議会、県指導主事指導助言）
- 夏休み・・・夏季研修会（講演「幼児教育、小中学校の学びをつなぐ」・連携教育についての協議会）
- 2 学期・・・学びに向かう力推進事業ブロック交流会（幼稚園年長組の公開保育、研究協議会）
- アプローチ・スタートカリキュラムの作成に向けての研究協議会
(小学校低学年の公開授業、研究協議会、県指導主事指導助言)
- 3 学期・・・次年度へ向けたアプローチ・スタートカリキュラムの検討会

多賀小学校区 幼小連携カリキュラム ◎テーマ「心豊かにたくましく つながり学ぶ多賀の子」

	アプローチカリキュラム（1・2・3月）	幼児園までに育てほしい10の姿	スタートカリキュラム（4月～）
<p>知</p> <p>「学びを深めること」</p> <p>「学びを深めること」</p> <p>「学びを深めること」</p>	<p>あそび</p> <p>○興味や関心を持って活動する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活や遊びを通して気づいたり知ったりしたことまじりの中に取り入れ工夫し経験を広げる。 ・遊ぶ「人・こと・もの」への関心が深まり、様々なものにもあふく、不思議さ、美しさに感動する。 ・生活や遊びを通して、数えたり、比べたり、組み合わせたりしながら、物の数量や長さや深さ、速さ、距離に関心を覚える。 ・数や算を通して、生活や遊びの楽しさを味わう。 <p>○伝え合う楽しさを味わう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が経験したこと、考えたことなどを適切な言葉で表現し、積極的に伝え合う。 ・文字で伝えることの楽しさを感じ、生活の中で文字をたくさん取り、書いたりすることを楽しむ。 ・絵を最後まで書く。 	<p>あそび</p> <p>◎男女関係性意識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感じたことや思い直したことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりするようになる。 ・生活、遊びの振り返り活動。 ・数や算や図形、図鑑や文字などへの関心・意欲 ・取組などに楽しむ様子を褒めたり、適切な文字の役割に気付いたりして、楽しみ・意欲、文字への関心・意欲が高まるようになる。 <p>◎自然との関わり・生活意識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然の触れ合いを通して、身近な事象への関心が高まったり、自然への愛情や保護の念を持ったりするようになる。 <p>◎書意の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いま、どんな気持ち？」カードを用いて振り返り。 	<p>あそび</p> <p>◎内容を捉えながら読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○読み聞かせで内容を捉え楽しむだけでなく、「上から読み方」読み物の活用 ○ペアやグループでの話し合い活動 ○話し合いの場を「書き出すために」 ○「書き出すために」 <p>◎意図に気付き、指書や物の数を、数字を使って書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文字に興味を持ち、ひらがなで言葉や簡単な文を書く。 <p>◎自然に興味を持ち、自然との関わりを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表山遊び ・水遊び ・アサガオの観察 ・あまひつ <p>◎めあてや学習の流れを把握して授業を受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たしざん ・ひまわり ・しらべよう
<p>徳</p> <p>「心豊かに育ち、つながり育ちを深めること」</p> <p>「心豊かに育ち、つながり育ちを深めること」</p> <p>「心豊かに育ち、つながり育ちを深めること」</p>	<p>あそび</p> <p>○思いやりの心を持って人と関わる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを表現し、友だちと喜びを分かちあう。 ・自分から関わりを持つことができる。 ・共通の目的に向かって取り組む中で、みんなで協力し合ったり助けたり、達成感や充実感を味わう。 ・一人ひとりの個性や長所を尊重し、主体的に行動する。 ・友だちとの関わりの中で、思いやりや思いやりを表現し行動する。 ・自分が関わる人とのふれあひの中で、自分がたつづきを感じたり行動する。 ・自分たちの生活や遊びをよりよくするために、どうしたらよいかを考えて、友だちと一緒に行動する。 	<p>あそび</p> <p>◎高学年・低学年間の交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム遊び、 ・ふれあひ遊び、わらべうた遊び、 ・行事参加する。 ・いろいろな行事の発表、 ・わくわくタイム、 ・書意を伝えあう活動、 ・高学年からの遊び、 ・保健小交流、 ・数遊び、 ・ゲーム遊び、 <p>◎互いの思いや考えを共有し、工夫したり、協力したりする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「思いやりの心」を共有し、工夫したり、協力したりする。 <p>◎安全に気づく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全に気づく 	<p>あそび</p> <p>◎自分思いを語る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○考えや気持ちを伝えあう。 ○自分の思いや考えを共有し、工夫したり、協力したりする。 ○安全に気づく <p>◎めあてや学習の流れを把握して授業を受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たしざん ・ひまわり ・しらべよう
<p>体</p> <p>「健康な心とからだを育て、生活が豊かになること」</p> <p>「健康な心とからだを育て、生活が豊かになること」</p> <p>「健康な心とからだを育て、生活が豊かになること」</p>	<p>あそび</p> <p>○全身を使って思い切り遊ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活に必要な運動の習慣を身につけ、進んで行う。 ・身の回りの整理整頓ができる。 ・楽しく食事ができることに喜びや感謝の気持ちを持つ。 ・生活リズムを確立し、定時を持って起床する。 ・あきらめずに最後までやり遂げようとする。 ・自分の目標に向かって努力し、達成したことを喜び、感謝の気持ちを表現する。 ・安全に必要な基本動作を身に付け、安全に行動する。 ・自分たちの遊びが豊かになる。 	<p>あそび</p> <p>◎健康な心とからだを育て、生活が豊かになること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手洗いや、うがい、はみがき、 ・掃除、片付け、 ・マラソン、 ・ダンス、 ・ゲーム遊び、 <p>◎安全に気づく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全に気づく 	<p>あそび</p> <p>◎安全に気づく</p> <ul style="list-style-type: none"> ○安全に気づく ○安全に気づく <p>◎安全に気づく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全に気づく

町で大切にしたい三つの力（知徳体）を基本形として計画

「幼児期の終わりまでに育てほしい姿（10の姿）」を、それぞれのカリキュラムの間に配置し共有することで、つながりを明確にしていきます。

幼稚園と小学校の協議の過程を大切にしながら作成しました。

4 実践事例 ～学びに向かう力の表出～（多賀幼稚園 5歳児）

【主題】『友だちと考えを出し合って、好きな遊びを楽しもう』

◎ 栽培物の世話・観察

（自然との関わり・生命尊重）



* 世話や観察をすることで、栽培物の生長に気付き、喜びを感じ、収穫した野菜をいただくことで、感謝の気持ちが出来てきています。

・大根も白菜もキャベツも葉っぱが大きくなってきたな！
・お水いっぱいあげようっと。

・今日の鬼はどうやって決める？
・じゃんけん？
・いつもしてない人にする？

◎ 鬼ごっこ

（協同性）



* 友だちと思いを共有し、ルールを考えたり、決めたりし、充実感をもって遊んでいます。

◎ 色水あそび

（思考力の芽生え）



* 友だちと一緒に様々な自然物を使って、試したり工夫したりしながら遊びをすすめ、満足感を味わっています。

・今日はこの花でジュースを作ろう！
・見て！こんなきれいな色になった。

「やったー」のカードを選び、、
・きれいな色水ができたから！
「くやしい」のカードを選び、、
・鬼にすぐに捕まった。

◎ 今日の振り返り

（言葉による伝え合い）



* 「いま、どんな気持ち？」カードを用いて、自分の気持ちや経験したことをみんなに伝えています。

5 研究1年目の成果と課題

<幼稚園>

- ・学びの芽生えを育む保育の在り方を研修等で学び、子どもの生活や遊びの捉え方が変わった。この遊びにはどのような学びがあるのかを見極め、環境構成を工夫することで、「やってみたい。やってみよう。もっとやってみたい！」と子ども自らが活動し、思いや願いを実現させていくことが分かった。
- ・子ども同士の学びを創造することと、教員同士の学び合いを創造することとは車の両輪であることを念頭に置き、次年度はさらに教員の指導力を高め、一人ひとりの学びや育ちを支える見取りや援助の在り方を探っていかなければならない。

<小学校>

- ・幼小の教員間で直接話し合う場をもつことで、双方が大事にすべきことや参考にすべきことに気づき、滑らかな接続につなげることができた。
- ・互いの授業や保育を参観することで、子どもたちの学びや育ちが見え、各々の課題が明らかになると考えるが、そのための時間確保が困難である。
- ・入学してくる児童の大半が保育園卒園児であることから、今後保育園とも連携をとりながら接続に関して検討し、就学前で共通したカリキュラムにしていくことが必要であるとする。

6 研究2年目に向けて

- ・今年度作成した接続期のカリキュラムを実践し、検証・改善を通して、多賀小学校区では「どのような子どもを育てたいのか。」を幼小で共有し、「そのために何に焦点を当てるのか」「何をねらい、どのような活動をしていくのか」をさらに探っていく。

研究主題：学びの連続性をふまえた保育・教育の創造

～接続期における学びの力・関わりの力・体の力の育成～

1 主題設定の理由

とらひめ認定こども園と虎姫小学校は長浜市の中央部に位置し、子どもたちは、明るくて人懐っこく、好奇心旺盛な子が多い反面、コミュニケーション力の弱さが園小共通の課題となっている。自分の思いを言葉で表現したり、怒りや悲しみの感情をコントロールしたりする力が弱く、トラブルや友達関係に影響を及ぼしている。また、スマホ、ゲームの普及や少子化などにより、人やものへの関わり方が分からない子が増え、自分から遊び出す子が減少する傾向にある。体力面においても、地域や家庭で体を動かして遊ぶ場や時間が少なくなっているため、転んでも手を付けない、手指の力が弱いなどの課題がある。

このことから、幼小連携・接続に関わり『学びの力・関わりの力・体の力』に視点を当て、子どもが心も体もわくわくさせながら自ら動き出せるような環境や援助の在り方を研究することとした。自ら体を動かして遊ぶ楽しさを味わうことで、多くの学びがあり、小学校の学習の基盤や仲間づくりにつながり、学校生活の様々な場面において、主体的にのびのびと行動する力を育むことになると考えた。

2 研究の目的

接続期における『学びの力・関わりの力・体の力』に視点を当て、学びの連続性をふまえた保育・教育を創造することで、以下のような子どもの育成を目指す。

【こども園】

- ・やりたいことを見つけて、心と体をわくわくさせながら遊ぶ子
- ・しなやかな心と体をもつ子

【小学校】

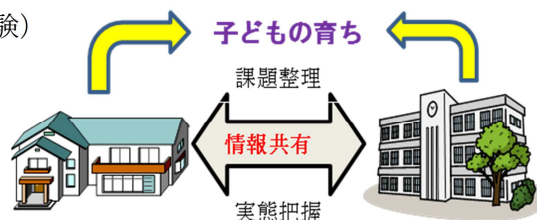
- ・自ら学び共に学ぶ子
- ・自分の周りも大切にできる子
- ・たくましく生きぬく子を育む
- ・夢をもち続ける子
- ・ふるさと虎姫を愛し誇りをもてる子

3 実践事例

- ・保育、授業公開及びグループ協議（情報交換）（年3回）
- ・講師を招いての園小中合同研修会
- ・こども園・小学校・中学校・高等学校の情報交換会（年15回）
- ・子どもやその家族を支援する体制 連携方策会議（年7回）
（園小中職員・専門機関・行政・主任児童員・養護教諭）
- ・新転任研修会、虎姫の子どもを語る会での教職員の交流（年2回）
- ・園児と中学生、高校生との交流（家庭科の授業、職場体験）
- ・中学校区の学校運営協議会
- ・5歳児と1年生の交流（年間を通じて定期的に）

ねらいと内容を精査した5・1交流計画

学年	ねらい	内容	実施時期	実施場所	実施者
5歳児	5歳児と1年生の交流	5歳児と1年生の交流（年間を通じて定期的に）	年間を通じて	こども園・小学校	こども園職員・小学校教員
1年生	園児と1年生の交流	園児と1年生の交流（年間を通じて定期的に）	年間を通じて	こども園・小学校	こども園職員・小学校教員
2年生	園児と2年生の交流	園児と2年生の交流（年間を通じて定期的に）	年間を通じて	こども園・小学校	こども園職員・小学校教員
3年生	園児と3年生の交流	園児と3年生の交流（年間を通じて定期的に）	年間を通じて	こども園・小学校	こども園職員・小学校教員
4年生	園児と4年生の交流	園児と4年生の交流（年間を通じて定期的に）	年間を通じて	こども園・小学校	こども園職員・小学校教員
5年生	園児と5年生の交流	園児と5年生の交流（年間を通じて定期的に）	年間を通じて	こども園・小学校	こども園職員・小学校教員



ペア・活動



交流を通して、子ども同士の関わりが広がったり、深まったりするように工夫しています。



4 幼児教育と小学校教育をつなぐ取組 ～接続カリキュラム～

スタートカリキュラムを編成するための協議を行う
～生活科と国語科との合科的な指導～

こども園5歳児 5期

健康 人間関係 環境 言葉 表現

5領域

園の5領域における協同的な遊びを通しての学びから

小学校の教科学習における学びへ

カリキュラムの円滑な接続を図るために、生活科と国語科の年間指導計画を見直して合科的・関連的な指導を計画した。さらに、スタートカリキュラムとしての視点で教育課程に位置付けた。

1年生の1学期は、教科の枠を超えた関わりが多いため、新たなものを作るだけでなく、各教科等のつながりを考え、それを組合せた大単元として計画した。
中心となる生活科に国語科や図工科・体育科などを関連させ、スタートカリキュラムとした。

生活科を核とした国語科との合科的な指導

単元のねらい

小学校1年生

国語科ねらい 算数科ねらい 生活科ねらい 図工科ねらい 音楽科ねらい 特別活動ねらい等

学校って楽しいな

スタートカリキュラムのねらい

目標
○グループで自分の思いや願いを話し合ったり、調べてきたことをみんなに伝え合ったりする活動を通して、意欲と自信をもって学校生活が送れるようにする。

生活科のねらい

【生活科】(1)「学校と生活」
○学校の施設や働いている人に関心をもち、積極的に学校探検をすることができる。
○学校探検を通して、学校内の多くの人や施設、自然、生き物とふれ合い、楽しみや発見をもつことができる。

国語科のねらい

【国語科】
○学校探検をして、そこにいる人にならぶつと、知らないことをたずねることができる。
○学校を探検して知らなかったことを学び、友だちが分かるように話すことができる。
○友だちの探検の大事なことを覚えていかに聞くことができる。

スタートカリキュラム

単元名	がっこうって たのしい①	【生活科】	【国語科】
【生活科】(1)「学校と生活」	【国語科】(1)「学校と生活」	【生活科】(1)「学校と生活」	【国語科】(1)「学校と生活」

5 研究1年目の成果と課題

- ・接続を意識した教育課程の編成を通して、互いのよさを学び合うことで、互いの保育・授業改善につながった。小学校では、幼児教育を踏まえることの大切さを意識するようになってきた。
- ・研究のサブテーマを『～接続期における学びの力・関わり力・体の力の育成～』としたが、もう少しテーマを絞り込み、焦点化した方が分かりやすい。
- ・1年生と5歳児の担任同士が中心になりがちであったが、校種間連携を継続するには、担当者任せにするのではなく組織的な取組を目指したい。そのためには、園小中の教職員が集まって研修や交流する場を定期的につくるなど、校区の連携を積極的に進めていく必要がある。特に管理職が積極的にコミュニケーションをとり、話し合いに加わっていくことが大切である。
- ・子どもたちは、園も小学校も中学校も同じ地域の中で育っているため、その地域の課題こそが連携の柱となる。地域の課題を全教職員が共有し、連携の必要性と目的を明確にしていくことが大切である。
- ・交流の事前・事後に職員間の打合せや協議等の時間を確保するのは大変である。他の職員による協力体制の充実を図り、計画的に行っていききたい。



6 研究2年目に向けて

- ・2020年に小中一貫校の開校が予定されている。本学区では、これまで以上に連携を深めていくことが求められており、小中一貫教育を意識した幼小連携・接続にする必要がある。
- ・小・中学校が国語科を中心に伝え合う力を視点として連携することもあり、園小研究の軸を一本化しサブテーマを『～接続期における伝え合う力の育成～』と変更する。その上で、虎姫の0歳から15歳までの子どもの育ちや学びの連続性を見ていくこととし、課題や目指す子ども像を中学校区の全職員で共有する。
- ・幼小の連携・接続を組織的に取り組んでいくため、幼小中連携担当を園務、校務分掌に配置する。年度が変わり、各校園に転任してきた職員には研修や交流する場をもつ。また、担当者任せでなく学校や園全体で取り組めるように、交流や合同研修会等を年間行事に組み入れたり、管理職や担当者が短時間でも定期的に集まって協議を行う機会をもったりする。

「学びの基礎」の3つの要素からみる幼児期と児童期のつながりの概念図

幼児期の子どもは、遊びを中心とした生活の中で、様々な対象（人・もの・こと）との直接的・具体的な体験を通して学んでいきます。幼児期の教育は、5領域の内容を遊びや生活を通して総合的に学んでいく教育課程に基づいて実施されています。

児童期の教育は、各教科の学習内容を系統的に配列した教育課程に基づいて実施されています。

学ぶ力の向上

幼児期 学びの芽生え

児童期 学びの基礎

学びに向かう力

自己制御や自尊心などの
非認知的能力

様々な遊びの中で、興味や関心をもち、頭も心も体も動かして、楽しんで取り組む。

学びに向かう力

主体的に学ぶ姿勢
意欲的に学習をする能力や態度、学ぶことの楽しさや成就感の体得、知的好奇心をもつ。

身の回りの「人・もの・こと」に直接関わり、幼児なりのやり方で、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。

好奇心・探究心

学び方
具体的な活動や体験を通す。問題解決的な能力や態度、試行錯誤を繰り返してやってみる。

探究的な学び

生活に必要な活動を自分でし、友達と生活する中できまりの大切さに気付いたり、考えて行動したりする。

自立心

学習規範
姿勢や態度、学習用具の使い方、話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと。

学びの自立

幼児期から児童期への接続期には、学校生活に円滑に移行していくためのアプローチカリキュラムやスタートカリキュラムが必要となります。

遊び

5歳児3学期
アプローチカリキュラム

安心 成長 自立
1年生1学期
スタートカリキュラム

学習

幼児教育

接続期

小学校教育

- ・5領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）を総合的に学んでいく教育課程等
- ・子どもの生活リズムに合わせた1日の流れ
- ・身の回りの「人・もの・こと」が教材
- ・総合的に学んでいくために工夫された環境の構成 など

- ・各教科等の学習内容を系統的に学ぶ教育課程
- ・時間割に沿った1日の流れ
- ・教科書が主たる教材
- ・系統的に学ぶために工夫された学習環境 など

〔スタートカリキュラム スタートブック〕(国立教育政策研究所 平成27年1月)を参考に作成

幼児教育の内容と小学校教育の教科等との関連

国語	算数	社会	総合的な 学習の時間	理科	音楽	図画 工作	体育	道徳	特別 活動
		生活科							

スタートカリキュラムを通じて、各教科等の特質に応じた学びにつなぐ

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

健康な心と体

充実感や満足感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせながら取り組むようになる。

自立心

自分でしなければならないことを自覚して行い、諦めずにやり遂げることで満足感や達成感を味わいながら、自信をもって行動するようになる。

協同性

互いの思いや考えなどを共有し、工夫したり、協力したりする充実感を味わいながらやり遂げるようになる。

道徳性・規範意識の芽生え

してよいことや悪いことが分かり、相手の立場に立って行動するとともに、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、決まりを作ったり守ったりするようになる。

社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもったり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に一層の親しみをもったりするようになる。

思考力の芽生え

思い巡らし予想したり、工夫したりなど多様な関わりを楽しみ、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、身近な事象への関心が高まったり、自然への愛情や畏敬の念をもったりするようになる。

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

数量などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりして、数量・図形、文字等への関心・感覚が高まるようになる。

言葉による伝え合い

言葉を通して先生や友達と心を通わせ、豊かな言葉や表現を身に付けるとともに、思い巡らしたことを言葉で表現して楽しむようになる。

豊かな感性と表現

感じたことや思い巡らしたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりするようになる。

アプローチカリキュラムを通じて、学びに向かう力を小学校教育につなぐ

健康

人間関係

環境

言葉

表現

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」にねらいや内容として示されている5つの領域

〔「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年12月21日中央教育審議会）を参考に作成〕

学びの芽生え(幼児期)

- 健康**
 - 体を動かす
 - いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。
 - 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。
- 人間関係**
 - 自立心を育てる
 - 自分で考え、自分で行動する。
 - 自分でできることは自分でする。
 - いろいろな遊びを楽しみながらやり遂げようとする気持ちをもつ。
- 環境**
 - 興味や関心をもつ
 - 自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。
 - 日常生活の中で数量や図形、簡単な標識や文字などに関心をもつ。
- 言葉**
 - 本に親しみ、想像する
 - 絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わう。
 - 日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。
- 表現**
 - 伝え合う楽しさを味わう
 - 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。
 - 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。

主体的に学ぶ姿勢

学びの基礎(児童期)

【意欲的に学習をする能力や態度】

- 学ぶことに興味をもつ。
- 分からないことは、自分で調べる。
- 自ら考え行動しようとする気持ちをもつ。
- がんばったことやできるようになったことで自信をもつ。
- 新たな問題に果敢にチャレンジしようとする。
- 思いきり体を動かして汗をかく。

なぜかなあ？
ふしぎだなあ。

【学ぶことの楽しさや達成感の体得】

- 人と関わりをもつことにうれしさを感じる。
- 自分だけでなく、仲間と協働して解決する。
- 友だちとの触れ合いの中で、自己を発揮する。
- 認められることで自己存在感や充実感を味わう。
- 新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わう。

やったあ！
自分でできたよ。

【興味や関心をもつこと】

- 文字や数に興味をもつ。自然に興味をもつ。
- 興味や関心が芽生えたことに夢中になる。
- もっとやってみようという気持ちをもつ。

わっ！
おもしろそう。

指導のポイント

安心 成長 自立

■しっかりほめる、認める、評価する

- ・周りの子どもも「できているな」と分かることや子ども自身も「できているな」と感じていること、自分で気づいていないこと(教師が価値付ける)をほめる。
- ・自ら進んでしてきたことや進歩がなくても続けていることを認め、定期的に、客観的な評価をする。

■知的好奇心を刺激する

- ・子どもが感性を揺さぶられることによって芽生える興味や関心を大切にすること。
- ・少しだけ難しいこと(さらに良いこと)を伝えて、期待していることを示す。
- ・既知と未知との「ずれ」を意識させる。
- ・予想を取り入れて、課題を自分事にする。

■共感する

- ・「分かった」瞬間と一緒に喜ぶ。
- ・子どもの思いに寄り添う。



学びに向かう力の育成につながります

低学年において、主体的に学習をする姿勢や態度、学ぶ事の楽しさや達成感を体得することは、どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力の育成につながります。学ぶことの楽しさや達成感を体得するためには、具体的な活動や体験を通ずることが重要です。

- 健康**
 - 見通しをもつ
 - 生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する。
- 人間関係**
 - 人と関わる
 - 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。
 - 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見いだし、工夫したり、協力したりなどする。
- 環境**
 - 発見を楽しみ、考える
 - 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。
 - 身近な物や遊具に興味をもって関わり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。
- 言葉**
 - 自分の言葉で話す
 - したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。
 - いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。
- 表現**
 - 表現を楽しみ、工夫する
 - 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。
 - いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。

学び方

【具体的な活動や体験を通ずこと】

- 直接触ったり、操作したりして考える。
- 身近なものやことを見たり、聞いたりする。
- 教室の中だけでなく、外に出て活動する。
- 人と関わり、一緒に活動したり、つくったりする。
- 身の回りにあるものを自分と一体として理解する。

見てみたい。
さわってみたい。
やってみよう。

【問題解決的な能力や態度】

- 自分たちで問題を見つけて、解決しようとする。
- これまでに学んだことを使って問題を解決する。
- 自分なりのやり方で取り組む。
- 環境に好奇心や探究心をもって関わる。
- 仲間とともに問題を解決する。

あっ！
できそだった。

もっとやってみよう。

【試行錯誤を繰り返すこと】

- 試行錯誤を繰り返す中で、新たなものを創造する。
- 繰り返し努力することをいとわない。または、楽しむ。
- 失敗してもあきらめずに、最後までやりきる。



指導のポイント

安心 成長 自立

■身近な事象を取り扱う

- ・子どもたちの身の回りにあるものを教材化する。
- ・子どもにとっての必然性の高いものを教材化する。
- ・子どもが思いついた方法をすぐに試せるような環境を用意する。

■活動に没頭できるようにする

- ・時間や場所にゆとりをもつ。
- ・上手くいかなかった理由を考えて失敗を生かす。
- ・繰り返し学ぶこと、あきらめずに学び続けることを価値付けて、意欲を持続させる。

■子どもの多様性を保障する

- ・子どもの創意工夫を生かし、イメージを広げる。
- ・出来栄ではなく、学びの過程を評価する。
- ・一人ひとりの表現や思いを大切にできる集団づくり。

■対話的な学びにする

- ・グループで学び合う活動や、自分の考えを伝え合う活動を取り入れた対話的な学びにする。

探究的な学びにつながります

子どもが試行錯誤を繰り返しながら学んでいく「学び方」は、中学年以降の探究的な学習につながっていきます。一回で成功することよりも、トライ＆エラーを繰り返して学ぶことに価値付けをしていきたいものです。自分なりのやり方や多様性を保障することは、「何を学ぶか」から「どのように学ぶか」という、問題解決的な学びのプロセスを大切にすることであり、深い学びにつながっていきます。

- 健康**
 - 健康な心と身体を育てる
 - 健康な生活のリズムを身に付ける。
 - 生活に必要な活動を自分でする。
- 人間関係**
 - 規範意識の芽生えを培う
 - よいことや悪いことがあることに気付く、考えながら行動する。
 - 友達と楽しく生活する中でまきりの大切さに気付く、守ろうとする。
- 環境**
 - 生命やものを大切にする
 - 身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付く、いたわったり、大切にしたりする。
 - 身近な物を大切にすること。
- 言葉**
 - 話を聞く、話す
 - 生活の中で必要な言葉が分かり、使う。
 - 人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。
 - 親しみをもって日常のあいさつをする。

学習規範

【姿勢や態度】

- 先生や友達の話をしっかり聞く。
- 学習中、姿勢を保つ。
- 集中して課題に取り組む。
- 身の回りの整理整頓をする。
- 授業と休み時間の区別など時間を守る。
- 学習課題にすぐに取り組む。
- 下敷きを敷いて、ノートをとる。板書を写す。

片づけると
気持ちいいな。

【学習用具の使い方】

- 学習に必要な用具が揃っている。(不要な物は持たない)
- 正しい鉛筆の持ち方で文字を書く。
- 学習用具を大切にすること。

準備ができて
いると安心。

【話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと】

- 黙って手を上げて、指名されてから発表する。
- 話を聞くときは、話し手の目を見る。
- 自分の考えたことを書く。

みんなに知ら
せたいな。

指導のポイント

安心 成長 自立

■共通理解から共通実践へ

- ・全校で統一した指導をする。
- ・誰もが分かるようにする。(例：各教室に掲示する、ガイドブックを作る、保護者にも説明する等)
- ・できたことをほめ、認めることで、学習習慣の定着を図る。

■成長を見守る


- ・指導の重点を絞って取り組む。
- ・変化が見られるまで粘り強く続ける。
- ・実現可能な目標を立ててレベルアップを図る。

■自立への基礎を養う

- ・自分でできることは自分でさせる。
- ・自分たちで決めた約束は必ず守らせる。
- ・成長や伸びを子どもにフィードバックする。

学びの自立につながります

学びの姿勢や態度の他、学習用具の使い方や読んだり書いたり聞いたり話したりすることにおける学習規範は、集団や実生活の中で人との関わりを通して、体験的に育成されます。実体験を通して育成された学習規範は、自ら学ぶ学びの自立につながります。



平成 31 年 3 月

滋賀県教育委員会事務局

幼小中教育課

